

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-73	14-002	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Association between alcohol and cardiovascular disease: Mendelian randomisation analysis based on individual participant data. アルコールと心血管疾患：個人データに基づくメンデル無作為化分析		
執筆者		
Holmes MV, Dale CE, Zuccolo L, Silverwood RJ, Guo Y, Ye Z, et al.		
掲載誌		
BMJ. 2014 Jul 10;349:g4164. doi: 10.1136/bmj.g4164.		
キーワード		PMID
メンデル無作為化分析、アルコール脱水素酵素、心血管疾患		25011450
要 旨		
目的： アルコールと心血管疾患の因果関係を検討する道具として、アルコール脱水素酵素 1B 遺伝子 (ADH1B) における rs1229984 バリエントを用い、56 の疫学研究のメンデル無作為化メタアナリシスを行う。		
方法： 対象は 26 万人のヨーロッパ系の集団で、約 2 万の冠動脈疾患イベントおよび約 1 万の脳卒中イベントがあるデータである。上記バリエントとアルコール表現型、心血管バイオマーカーのデータがある。全対象者および飲酒量別に、ADH1B バリエントと冠動脈疾患、脳卒中のオッズ比を算出した。		
結果： ADH1B rs1229984 の A アレルの保持者は、非保持者に比べて週間飲酒量が 17.2%(95%CI 15.6-18.9%)少なく、問題飲酒のリスクが低く (オッズ比 0.78 (95%CI 0.73-0.84))、禁酒率が高かった(オッズ比 1.27 (95%CI 1.21-1.34))。この保持者はまた、収縮期血圧が低く (-0.88 mmHg)、インターロイキン 6 レベルが低く (-5.2%)、ウエスト径が低く (-0.3cm)、BMI が低かった (-0.17 kg/m ²)。また、冠動脈疾患のオッズ比が低かった (0.90 (95%CI 0.84-0.96))。A アレルの予防的関連は、アルコール摂取量の全てのカテゴリーで同様に見られた (不均一性の検定 P=0.83)。全脳卒中との関連は見られなかったが、虚血性脳卒中については A アレル保持者のオッズ比は低かった (オッズ比 0.83 (95%CI 0.72-0.95))。		
結論： 非飲酒あるいは飲酒が少ないことに関連する遺伝的バリエントは、このバリエントがないものに比べて、心血管疾患危険因子が良好の傾向があり、また、冠動脈疾患リスクが低かった。少量または中等量飲酒者においてさえ、飲酒量の低減は心血管疾患予防に有益と考えられる。		